



江君 寛

日本赤十字社医療センター
看護師

集中 OPINION

私自身が「お一人様」になって 知った、悩みに寄り添う患者支援

——どのような経緯で看護師の道を選ばれたのですか。

寛 高校卒業後に、知人に看護学校を紹介されたのがこの仕事を目指した切っ掛けです。2年間で准看護師の資格を取り、3年間は昼間に病院で実習をしながら定時制で学び、看護師資格を取りました。その後、日本赤十字社医療センターの看護師の募集を知り応募しました。その頃は、資格を生かして働く事で頭が一杯で、それ以外の事はあまり考えていませんでした。当時、病院の近くに好きな雑貨屋さん

のを覚えています。

——長く手術室看護師（オペナース）をされていると伺いました。

寛 最初の配属が手術室で、そのまま長く続ける事になりました。配属当時は、病室で患者の世話等をする看護師のイメージと違うので驚きましたが、直ぐに慣れました。中には、手術室の仕事に慣れず、病床を希望する方もいますが、私は性に合っていたのだと思います。確かに手術中は臨機応変な対応が求められ、勉強も必要で、最初は手際が悪くて周囲

少子高齢化によって、身寄りの無い一人暮らしの人が増え社会問題化している。孤独死の増加も新たな課題となっているが、病院でも身元保証人がいない患者の入院受け入れに苦慮している。こうした、家族との縁が薄い一人暮らしの人達を支援する取り組みも行われるようになって来た。单身独居の患者にはどのような支援が必要で、どういった課題が有るのか。膵臓がんと診断された後、お一人様用の支援サービスを利用しながら仕事と闘病の両立を図っている日本赤十字社医療センターの看護師・江君さんに、一般社団法人日本介護事業連合会を通じて話を聞いた。

続きを読むには購読が必要です



に迷惑を掛けずとも有ったと思います。大変な仕事ではあります。途中2年程の病棟勤務を除いて、ずっと手術室にいます。執刀医として手術室に入ります。気性の荒い先生もいます。寛 そうです。分の思い通り職人肌の先生もいます。決して、他の先生が失敗した訳ではな手術がご自身のイメージ通りに進まないと言った。感じるのかも知れませ
も変わると思っています。先生は、無いです。自己嫌悪がひどくなる。詳しくはホームページをご覧ください。私の場